

NARO Research Prize 2012

茎葉多収で糖含有率が高い 稲発酵粗飼料水稻品種「たちすずか」

松下景^{1,2)}、春原嘉弘^{1,3)}、出田収¹⁾、飯田修一¹⁾

(¹近畿中国四国農業研究センター 水田作研究領域、²現 中央農業総合研究センター 作物開発研究領域、³現 作物研究所 稲研究領域)

研究の目的・背景等

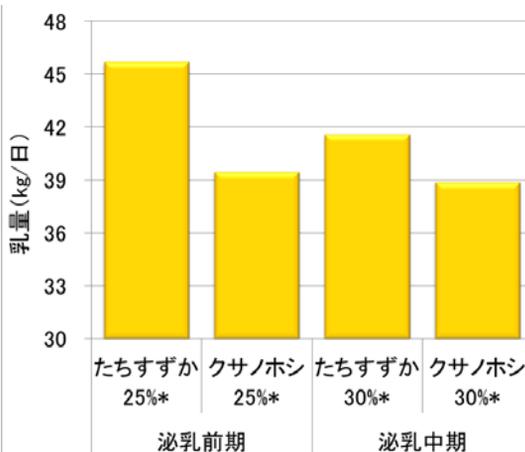
国産の飼料として、米だけでなく茎葉も合わせた稲の植物体全体を発酵させて牛の飼料として利用する「稲発酵粗飼料」の普及が推進されている。しかし、従来の品種は、牛にとって消化が悪い籾の割合が高く、発酵に必要な糖が植物体内に少ないという問題があった。そこで、消化性や発酵性を高めた稲発酵粗飼料専用品種の育成を目指した。

研究の概要

「クサノホシ」などの籾多収品種と比較し、牛体内で消化されにくい籾が大幅に少なく、消化されやすい茎葉が多い品種「たちすずか」を育成した。発酵に必要な植物体内の糖含有率は、「たちすずか」が「クサノホシ」の2～5倍あり、良質の発酵粗飼料が得られる。さらに、耐倒伏性が“極強”のため、施肥量を多くしても倒伏しにくく、収穫作業が長期間にわたって可能である。「たちすずか」発酵粗飼料給与牛は、「クサノホシ」に比べて乳量が多く、体重減少抑制効果が期待できる。広島県など西日本を中心に作付面積が拡大している。



図1 立毛草姿および穂相



* 飼料中の稲発酵粗飼料の混合割合 (乾物ベース)
図2 泌乳試験結果 (広島県立総合技術研究所)



松下 景



春原 嘉弘



出田 収



NARO

農研機構

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

